

# My Chronicle

## 私の仕事

転換期や、思い出に残る過去の案件を伺いました。

Nネット本部理事 西日本支部会長  
富崎建設株式会社 代表取締役社長

富崎 英一さん

EIICHI TOMIZAKI



### PROFILE:

東京生まれ、大阪育ち。大学卒業後、西松建設 当時の関西支店にて9年勤務。現場を中心にさまざまな経験を積んだ後、33歳で富崎建設に入社。48歳で父・英範の後を継ぎ、4代目として代表取締役社長に就任。

いただいた恩義を忘れずに

与えられた仕事は

最後までやり遂げる！



## Data

### 台風20号における神戸電鉄災害復旧工事

- 【所在地】神戸電鉄株式会社 有馬線 花山駅～大池駅間
- 【概要】台風20号により発生した線路法面崩壊災害に対する応急復旧工事及び本復旧工事
- 【工事期間】応急復旧工事：2018年8月24日～26日  
本復旧工事：2019年3月19日～2020年3月31日

## Mission

富崎建設は、西松建設創業者である西松桂輔さんを縁とする西松一家十人衆のひとり、富崎滝五郎が創業。滝五郎を伯父にもつ、富崎新一が私の祖父にあたります。滝五郎、祖父の新一、そして父の英範に続き、私が4代目として100年以上に渡って西松との関係を築いてきました。

その歴史の中では関西エリアを中心に、大阪市営地下鉄、神戸市営地下鉄、JR西日本などの電鉄系工事、また阪神淡路大震災では災害復旧関連工事を担うなど、大規模な建造物に多数関わらせていただいています。

今回取り上げる有馬線の花山駅～大池駅間の災害復旧工事は、私にとって特に印象に残っている工事です。2018年に発生した台風20号による大惨事の後に現場へ到着した私は、高さ10mほどの斜面が崩れ、レールも枕木も宙に浮いている状態にまず驚きました。いつまた崩れてもおかしくない状況で危険と隣り合わせの災害現場。危険だからこそ、一刻も早い復旧をしなければならなかったことをよく覚えています。まずは二次災害を起こさないよう、周囲に気を配りながら職員さんも作業員もドロドロになりながら一緒に作業しました。足もとも悪く、重機が使えない場所が多かったにも関わらず、人海戦術によってたった3日間で復旧することができました。

後日、小学生新聞コンクール全国1位となった記事に、このときの復旧工事が掲載されていたことを知り感激しました。地域の方の役に立ち、喜んでもらったこと、また災害復旧などの私たちの仕事に興味をもっていただけたことはとても嬉しいです。この仕事にやりがいを感じた瞬間でした。

## Why I chose this

私は祖父が満州から引き上げてきた後に、飛行場やダム、鉄道現場を経て父とともに向かった横田基地で生まれました。生まれも育ちもいわゆる飯場で、現場が終われば次の現場となり、子どものころは引越しばかり。将来は土木の仕事はしたくないと思っていました。けれど、人の役に立つ建造物などの仕事に魅力を感じ、土木の道に進んだのです。西松建設には約9年お世話になり、技術力だけでなく優しく人情のある社風に仕事人としての自分を育てていただいたと思っています。最先端技術による施工や歴史的な建築に携わる機会も皆さんにはあるでしょう。そういった面も含め、業界の中でも西松建設では面白い仕事ができます。西松ブランドを誇りに、これからもがんばっていただきたいと思います。

